

「第五十三回霊界物語全国一斉拝読会」開催奉告祭祀詞

掛巻も綾に恐き大本皇大御神及惟神真道弥広大出口国

直霊主命の宇豆の大前に(齋主)伊伊慎み敬ひ恐み恐みも

白さく皇大神の広き厚き大経綸は月日と共に開け進み惟神の

御教は海の内外に弥広に拡さがり栄えゆくこそ実にも尊き極み

なれ今日はしも恐くも瑞霊真如大聖師の神書『霊界物語』

御口述始め給ひしより九十九年巡れる十月十八日の日にし

あれば大本教の全国宣信徒等一斉参加挙りて第五十三回の

霊界物語拝読の集合を開き相互に全巻を拝読了へむとす

故今日より後各自勉め励みて全巻の悉速かに拝読修め奉ら

むと心も新たに誓ひ奉りて御前には種々の多米津物を捧げ

奉りて称言竟奉らくを平けく安らけく聞食し相諾ひ給ひ

「永久の生命の糧なる神の書暇あるごとにつけまめ人」

「皇神のみのりを写すこの神書はどこよのやみを照らすともし火」

と宣らせ給ひし諭しの神歌畏み奉りこれの齋場に集へる

諸人は言ふも更なりあまねく霊界物語を学ぶ人々に

大神徳を授け給ひ差添の種となり救世の御教を宣伝へ大本の

教国は教主の下栄え久しく神の御国の勇士と男子も女子も

その本分を完うし身健やかに命長く平和世界を打ち建つる

大神業に雄々しく有終美しく仕へ奉らしめ給へ夜の守り

日の守りに守り幸へ給へと恐み恐みも乞祈奉らくと白す